

構想日本は会員がサポートする独立、非営利のシンクタンク



あなたの『思い』を『政策』に変える。

過去の J.I. メールニュース

J.I.メールニュース

タイトル:[マイク丹治の暴言シリーズ\(4\)補習と必修科目のすげ替えが解決か？](#)

[～今こそ何を学んでもらうかを真剣に見直そう！～](#)

発行日：2006/11/10

読者の声

■ 構想日本会員 近藤節夫(2006.11.12)

いま教育基本法改正問題がマス・メディアを中心に喧しいが、どうも教育の本質から逸れ他人行儀の議論に終始していて、視界がかすんでしまっている。

必修科目未履修、高校必修科目、大学入試、受験科目、いじめ、教育責任等々について個別に論じるのも結構だが、それらの議論には、その前提にそもそも教育とは何のためにあるのか、人を育てることの意味、おもいやりと慈しむ心等に関する、教育にとって最も本質的な論点と認識が欠けているように思えてならない。本来そんな議論より、初等教育課程において教師はまず子ども好きであることや、教師は子どもたちに常に笑顔で接することが基本的に大切なはずである。また、初歩的な自然界の知識、例えば地球誕生46億年とか、地球一周4万 km、時差の原理などの、将来社会人としてバランスのとれた知識や創造性を育てる社会現象や自然の摂理を、子どものころに教えこむことの方がよほど大切である。

私はかつて20年以上に亘り世界20カ国、49都市の公教育施設を見学して、その実態につぶさに触れていたことがある。そのとき初等教育に携わる教育者はいつも笑顔を絶やさず、根っから子ども好きであると強く感じた。イギリスで、実の親にも勝る愛情を教え子に注いでいる情景を目の当たりにして、感動させられたものである。毎朝登校すると校門で手を差し伸べて待つ先生に体を投げ出して抱きつき、前日下校後の行動を先生に目を輝かせて話し続ける幼子の明るい姿は、日本では見たことがなかった。先生たちの本当に子どもが好きで、可愛くてしょうがないという優しい表情が目立って印象的だった。子どもたちの態度にも、先生が好きで好きでたまらないという愛と信頼の感情がほとばしっていて、傍で見ていて心が和んできたものである。

前記の地理的知識にしても、これらを知っていると時差1時間が何kmに相当するのかが分かり、遠い海外都市でも概算距離を算出できる。頭の中で自然に距離感が分るのだ。

このように学校の教科の中で広義の实用学を学び、自分の位置、動き方を知らず知らずに教えてくれ、それが将来バランス感覚と社会常識を身に付けた人間に育ててくれる。だが、寡聞にしてわが国の教育界には、そういう方向を目指す動きがあるとは思えない。

僭越であるが、失礼を重々承知のうえで申し上げますなら、私には丹治幹雄先生のご提言もいささか枝葉末節に走り、やや論点がずれているように思えてならない。拙稿を議論のひとつの参考にしてもらえば幸いです。